

桑名市立小中学校再編計画の策定について（概要）

1. 小中学校再編の背景・目的

子どもたちを取り巻く環境は人口減少や少子化、情報技術の進展、AI 技術の革新、グローバル化など日に日に変化してきており、近い将来でさえ予測が困難な時代を迎えています。

これからの社会を生きていく子どもたちは、固定的な知識だけでなく、未知な状況にも対応するために、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、多様な他者と対話し、協働しながら判断し、行動できる力、いわゆる「生きる力」を身につけていく必要があります。そのためには、一定の集団規模を確保し、多様な価値観に触れ多くの同世代と経験を重ねながら成長していくことが大切です。市では、このような力を義務教育9年間を通してバランスよく育むために小中一貫教育に取り組んでいます。

しかし、全国的な人口減少、少子化が進行する中、本市の児童生徒数も想定を超えるスピードで減少してきており、このままでは、生きる力を育むための一定の集団規模の確保や多様な価値観に触れることが困難になってきています。また、学校施設の老朽化も進行している状況にあります。

このような状況の中、1年でも早く、子どもたちにとってより良い教育環境を実現することを最大の目的として、小中学校再編計画を策定するものです。

2. 策定を進めている学校再編計画とは

学校教育が抱えている課題を解決し、子どもたちにとってより良い教育環境を実現するための現時点での学校の将来構想（大枠）です。この計画を策定したからと言ってすぐに学校再編を進めていくわけではありません。

計画策定後、STEP2 の地域から再編を進めてほしいといった要望・意見をいただいたところから順に地域に入り、STEP3 の具体的な再編の協議・検討を開始します。



3. 学校再編計画の原型（ベース）

現在、策定を進めている学校再編計画は、平成29年に学識経験者をはじめ、市PTA連合会、自治会連合会、市スポーツ少年団、民生委員、小中学校の教職員、公募委員などの14名により構成された「桑名市学校教育のあり方検討委員会」から出された「望ましい学校教育のあり方についての答申」を基に、小中一貫教育の成果やアンケート調査結果、児童生徒数の推計結果などを加味し、時点修正を行い、作成したものです。

平成29年桑名市学校教育あり方検討委員会から

「望ましい学校教育のあり方について」答申を受ける

諮問

- ・桑名市における小中一貫教育について
- ・小規模校への対応について
- ・中学校区を基本とした地域毎の学校施設の具体的な形態について

答申

- ・桑名市あった形で全市的に小中一貫教育に取り組むべき **【実施中】**
- ・小中一貫教育をおこなう上での施設形態としては、施設一体型小中一貫校が望ましい **【反映】**
- ・将来的には各中学校区に施設一体型小中一貫校を設置し、小中一貫教育を進めていくことが望ましい **【時点修正し反映】**
- ・保護者や地域等の理解を得る期間が必要 **【実施中】**
- ・施設一体型小中一貫校のモデル校は、多度中学校区と考える **【整備中】**
- ・分散進学の解消 など **【反映】**

さらに本答申の内容を基に推進計画の早期策定についても示されています。

4. 学校の現状と課題

(1) 小中一貫教育の推進

令和2年度から小学校教育と中学校教育の独自性と連続性を踏まえた一貫性のある教育を展開。小中一貫教育は、義務教育9年間の教育課程の構造的理解を通して教員が指導力（生徒指導力・授業力）を向上させ、結果として子どもたちの学力が向上する取り組み。

(2) 学校の小規模化

◇児童生徒数の推移

令和7年度 10,492人（児童6,762人 生徒3,730人）実数

令和45年度 5,290人（児童3,499人 生徒1,791人）推計

児童生徒数 約5割減少

◇全学年でクラス替えができる小学校数の推移

令和7年度 多度地区を除く23校中11校 ⇒ 令和45年度 2校

(3) 学校施設の築年数（老朽化の進行）

築年数50年を経過した学校施設は多度地区を除く31校中18校

(4) 分散進学の解消

分散進学対象校 6校（立教、益世、修徳、大成、桑部、城南）

令和4年度実施 小中学校に関するアンケート結果では、分散進学対象校の児童（小学5年生）のうち約53%が全員が同じ中学校へ進学したほうがよいと回答

上記課題を解決し、子どもたちにより良い教育環境を提供するため、
小中学校再編計画の策定が必要

5. 学校再編の基本方針

(1) 子どもたちにとってより良い教育環境の実現を最優先

(2) 望ましい学校規模

児童生徒数 600人～1,000人程度 学級数 18学級～27学級

将来的に児童生徒数が減少することを見据え、望ましい学校規模を長期的に維持できる形を目指します。

(3) 分散進学の解消

中学校への進学の際、仲の良い友達と別の中学校に通うことになる子どもたちの不安や負担の解消及び学校と地域・各家庭の連携をしやすいするため、学校再編により新しい学区の編成に合わせて分散進学を解消します。

(4) 施設一体型小中一貫校（施設形態）

小学校と中学校の施設を一体化することにより、児童生徒及び教職員が日常的に交流を深められ、学習指導や生徒指導、児童交流がより一層深まり、小中一貫教育を進める上での課題の解決が図られます。また、小学校と中学校の施設を効果的に共用できるなど施設分離型に比べ、教育環境の充実を図ることができます。

(5) 義務教育学校（校種）

小学校と中学校の施設を一体化した施設一体型では、同一校舎に校長1人のリーダーシップのもと教職員組織を1つとすることで、小学校組織と中学校組織を分けて設置するよりも異学年交流や義務教育9年間の学びのつながり、小中の教職員がつながることで子どもたちの情報もつながりやすくなります。また、指示系統が1本化することで学校運営の舵取りがしやすくなります。

6. 新しい学校配置（案）

◆検討手順

(1) 整備候補地の検討

①新しい場所での整備候補地の検討

- ・全国事例から3.2～4.1ha程度の敷地面積確保
- ・農用地区域、保安林を除外
- ・都市的土地利用がされている区域を除外
- ・土砂災害特別警戒区域を除外

抽出



市内
12箇所

評価（地形条件・通学圏域など）



市内
0/12箇所

②ある程度の広さを有する既存学校地（中学校地）での整備の検討

- ・校地内での整備の可能性 → 運動場が使えないなど教育活動に様々な支障をきたす恐れ
- ・校地拡張の可能性 → 明正中学校は校地の拡張が困難（隣地：住宅・工場）



以上の検討 結果から

校地拡張が可能な光風・陽和・成徳・正和・陵成・光陵・長島の中学校地を候補地と選定

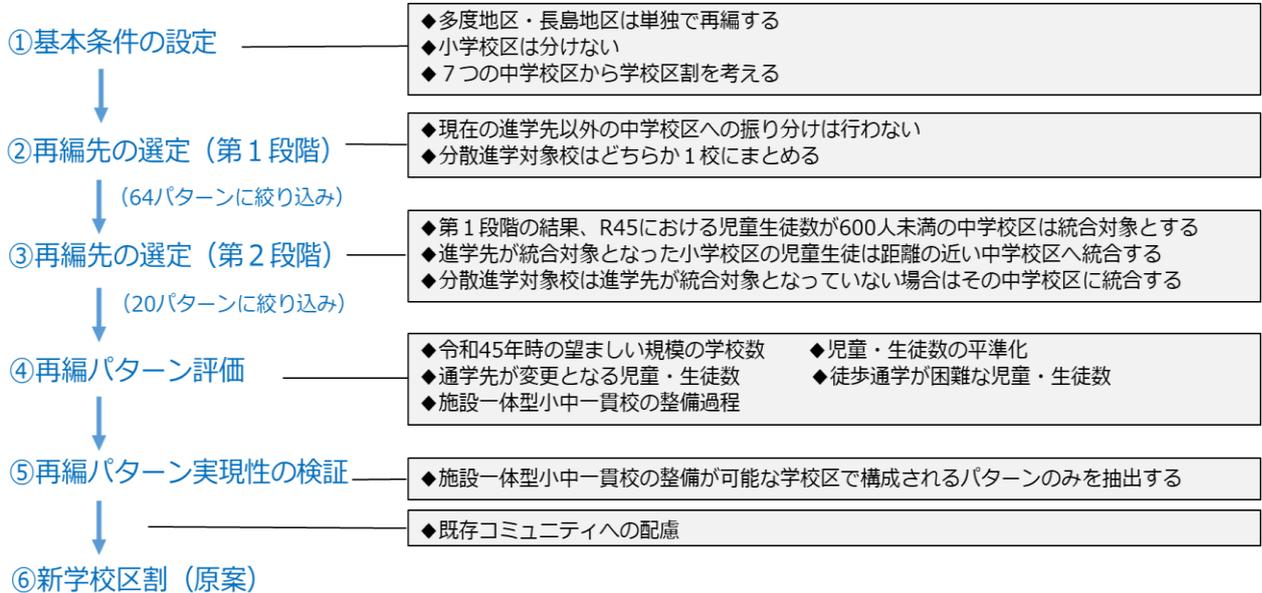
(2) 学校区割の検討

【考え方】

将来にわたり適切な教育環境を確保する。

学校再編に伴う児童生徒の影響・負担を最小限におさえる

【検討フロー】



◆新しい学校配置（候補地・学校区割）原案

	(仮称) 光風小中一貫校	(仮称) 陽和小中一貫校	(仮称) 正和小中一貫校
学校区割構成	精義小 大成小 益世小 深谷小 修徳小 大和小	日進小 立教小 城東小 城南小	桑部小 在良小 七和小 久米小
	(仮称) 陵成小中一貫校	(仮称) 光陵小中一貫校	(仮称) 長島小中一貫校
学校区割構成	大山田東小 大山田南小 藤が丘小	大山田北小 大山田西小 星見ヶ丘小	長島北部小 長島中部小 伊曾島小

【参考資料】

- ・桑名市小中学校再編計画（原案）について

【説明会動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=71h-qRP8xmk>



- ・桑名市立小中学校再編計画の原案検討の詳細資料

https://www.city.kuwana.lg.jp/documents/12007/zenkyou_r7_3_21-2-2-s.pdf



- ・令和5年～令和45年（2023～2063年）児童・生徒数及び学級数の推計結果

<https://www.city.kuwana.lg.jp/kyoikusoumu/kosodatekyouiku/school/suikei.html>



- ・望ましい学校教育のあり方について答申

<https://www.city.kuwana.lg.jp/documents/2705/20170426-142658.pdf>



- ・子ども向け説明動画「ぼくたち・わたしたちの学校～学校再編について～」

<https://www.youtube.com/watch?v=RFKKwD-csiE>

